

コニカミノルタ高槻サイト 環境・社会報告書 2011



KONICA MINOLTA

ご挨拶

平素は、コニカミノルタグループ 高槻サイトの活動にご協力を賜り、誠に有難うございます。

私どもは、地域の皆様を始め、多くのステークホルダーの方々にサイト内の活動をご理解頂くため、主要サイトにおきまして「環境・社会報告書」を、毎年発行しております。

本年度も、高槻サイトの事業内容や省エネへの取り組み、環境活動とその成果、環境データの公開、安全防災活動、地域社会活動などを紹介するため、「環境・社会報告書 2011」を発行させて頂きました。

多くの皆様にご一読頂き、私どものサイト内の活動をご理解頂ければ、幸いです。

これからもコニカミノルタグループは公正・透明な企業活動を行い、環境に対する取り組みをご理解頂くと共に、皆様からの率直なご意見を謙虚に受け止め、サイト内の活動に反映させてまいります。

今後共、皆様からのご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社
関西地区エリアリーダー
道上 正紀

1. サイト概要

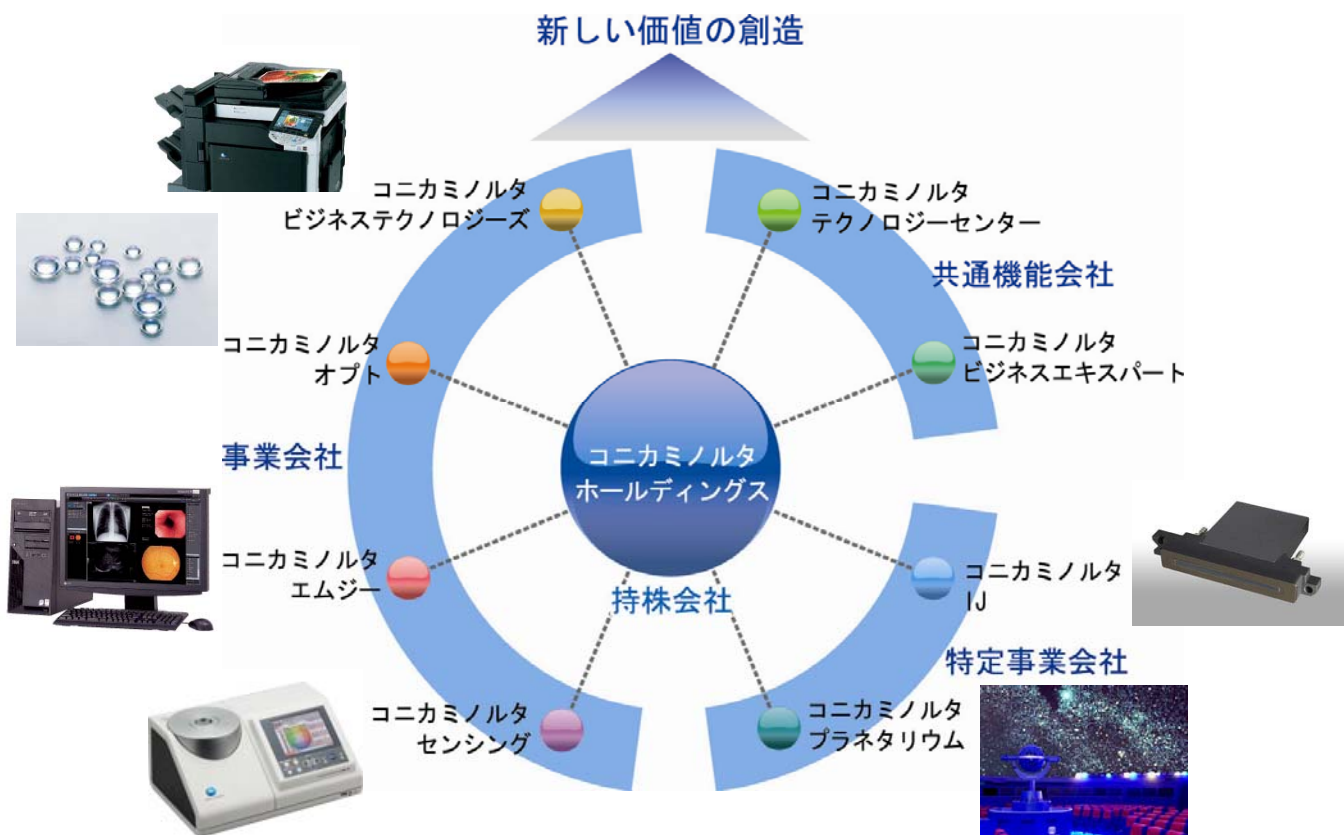
サイト名	コニカミノルタ高槻サイト
所在地	〒569-8503 大阪府高槻市桜町 1 - 2
設立	1984年
在籍人員	209名 (2011年3月1日現在)
敷地面積	19,999m ²
主要業務内容	1. 画像入出力技術、情報処理技術等の研究開発 2. 知的財産権の管理、運用に関するサービス 3. 工業デザインの企画及び設計
在籍会社	・コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社 ・コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社 ・コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社 ・コニカミノルタテクノサーチ株式会社 ・コニカミノルタ総合サービス株式会社 ・コニカミノルタエンジニアリング株式会社

【目次】

	ページ
1. サイト概要	1
2. コニカミノルタグループのご紹介	2
3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」	3
4. 「中期環境計画2015」の2010年度進捗状況	4
5. 環境負荷概要	5
6. 環境活動	5
7. 安全衛生・防災活動	9
8. 環境美化活動	9
9. 用語集	10

2. コニカミノルタグループのご紹介

コニカミノルタグループは、持株会社であるコニカミノルタホールディングス株式会社のもと、事業ごとに分社した事業会社と共通機能会社によって構成される企業グループです。これまで培ってきた材料、光学、微細加工、画像という4つのコア技術をもとに、世界各国のお客様にさまざまな製品やサービスを提供しています。今後も、経営理念である「新しい価値の創造」を探求し、イノベーションを続けてまいります。



持株会社

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

コニカミノルタグループの経営戦略の策定、推進、グループ経営の監査、管理、統括

本社所在地 東京都千代田区丸の内1-6-1

代表者 代表執行役社長 松崎 正年

設立 1936年(昭和11年)12月22日

資本金 37,519百万円

決算期 3月31日

共通機能会社

グループ横断的な機能を集約した会社

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

グループ内の研究、技術開発、商品デザインの受託、知的財産の管理運営などのサービス提供

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

グループ内へのエンジニアリング、ロジスティクス、環境、安全、その他各種シェアードサービスの提供

事業会社

事業別に、業務執行に必要な権限を委譲された会社

コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

複合機(MFP)、プリンター、印刷用機器などの製造、販売、ならびにそれらの関連ソリューションサービス

コニカミノルタ オプト株式会社

光学デバイス(ピックアップレンズなど)、電子材料(TACフィルムなど)の製造、販売

コニカミノルタ エムジー株式会社

ヘルスケア用機器、材料などの製造、販売

コニカミノルタ センシング株式会社

産業用、ヘルスケア用計測機器などの製造、販売

特定事業会社

持株会社の支援を受けて育成を図る事業会社

コニカミノルタ IJ株式会社

産業用インクジェットヘッド、インク、テキスタイルプリンターなどの製造、販売

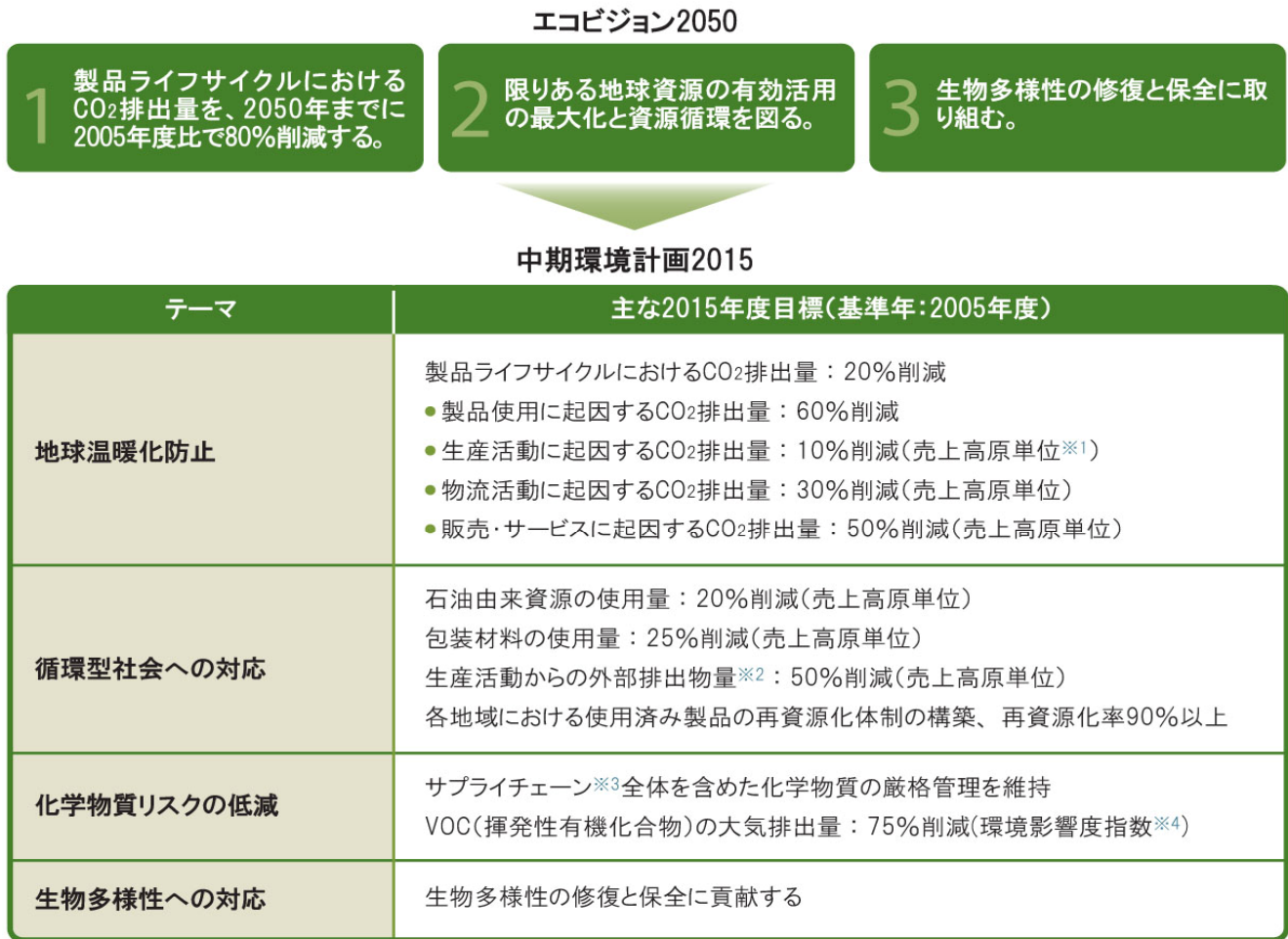
コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

プラネタリウム機器およびコンテンツなどの製造、販売、プラネタリウム建設ならびに運営サービス

3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」

コニカミノルタは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定しました。

また、「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして、2015年度をターゲットとする「中期環境計画2015」を策定しています。この計画では、「地球温暖化防止」「循環型社会への対応」「化学物質リスクの低減」「生物多様性への対応」の4テーマについて、具体的な取り組みと達成すべき目標を掲げています。



※1 売上高原単位：売上高あたりの環境負荷量。

※2 外部排出物量：生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。

※3 サプライチェーン：ここでは、上流の素材会社から部品加工会社を経て、コニカミノルタに納品されるまでのルートを指します。

※4 環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数。

図3-1 中期環境計画 2015

さらに、この計画を生産の観点から推進する施策として、2010年1月、生産拠点の環境活動を総合評価する独自の制度「グリーンファクトリー認定制度」の運用を開始しました。

グリーンファクトリー認定制度

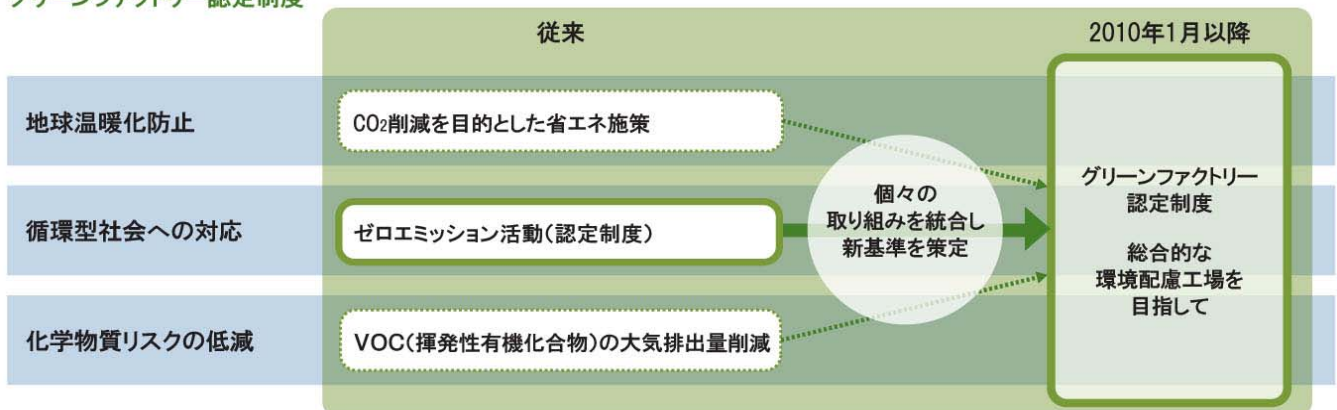


図3-2 グリーンファクトリー認定制度

4. 「中期環境計画2015」の2010年度の進捗状況

(1) 地球温暖化防止

製品ライフサイクルCO₂排出量を2005年度比で、
 目標：43.5% 削減（921千t-CO₂）
 実績：45.5% 削減（888千t-CO₂）

製品使用時のCO₂排出量については、業界トップクラスの低消費電力を実現したモノクロ複合機などを市場に投入し、目標値を達成しました。また、生産活動では、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、エネルギー生産効率を高め、CO₂排出量削減を着実に進めています。しかし、物流活動では、需要変動への対応などともなう航空機輸送の増加が影響し、目標を達成できませんでした。



図4-1 製品ライフサイクルCO₂排出量

(2) 循環型社会への対応

生産拠点からの外部排出物量(売上高原単位)を2005年度比で、
 目標：9.9% 増加（2.7t/億円）
 実績：15.9% 増加（2.9t/億円）

生産活動からの外部排出物量の削減に向け、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、生産効率向上や内部リサイクルを推進しています。しかし、生産時の排出物負荷が大きい製品の増産や、新工場立ち上げにともなう突発的な廃棄発生などにより、グループ全体では目標値を達成することができませんでした。



図4-2 生産活動からの外部排出量

(3) 化学物質リスクの低減

VOCの大気排出量(環境影響度指数)を2005年度比で、
 目標：71% 削減
 実績：73% 削減

VOC(揮発性有機化合物)の大気への排出量は、景気回復による生産増のため、前年度比で増加しましたが、年度目標を達成することができました。

環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響度、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミルタ独自の指数



図4-3 VOC大気排出総量(リスク換算)

(4) 生物多様性への対応

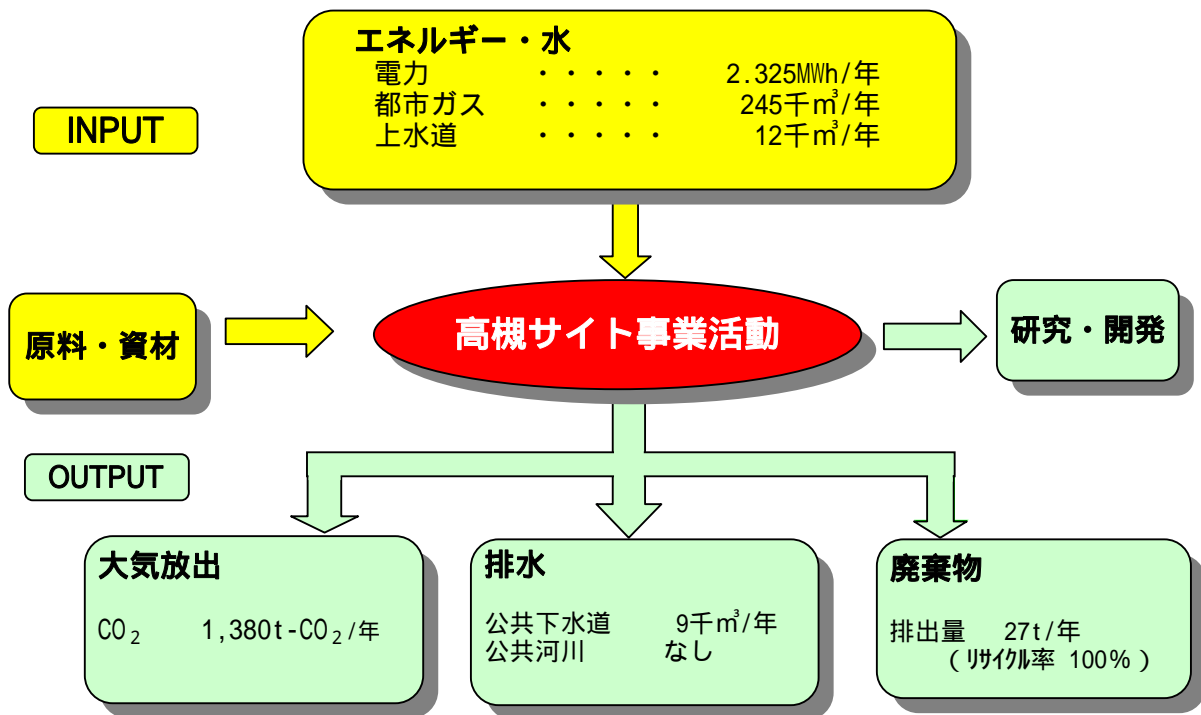
「グリーンファクトリー認定制度」の運用の一環として、生物多様性への対応に取り組んでいます。水資源や排水への配慮、工場植栽の適正管理について対応指針を策定し、2011年4月から運用を開始しました。

区分	チェック項目
水資源への配慮	使用する水について、総取水量の削減目標を設定し、削減施策を実施していること。
排水への配慮	公共用水域へ排出する排水が、水生生物の生息環境など生態系へ及ぼす影響を確認できていること。
工場植栽の適正管理	工場敷地内で、生態系に悪影響を及ぼすおそれ強い外来侵入種の植栽、種子の播種を行っていないこと。

図4-4 生物多様性対応指針(抜粋)

5. 環境負荷概要

当サイト2010年度の環境負荷の概要は以下のとおりです。



6. 環境活動

当サイトでは、環境負荷の軽減に向けた活動を継続的に実施しています。

(1) 地球温暖化防止への取り組み

当サイトでは、CO₂削減に向けた省エネルギー活動を継続して行っています。

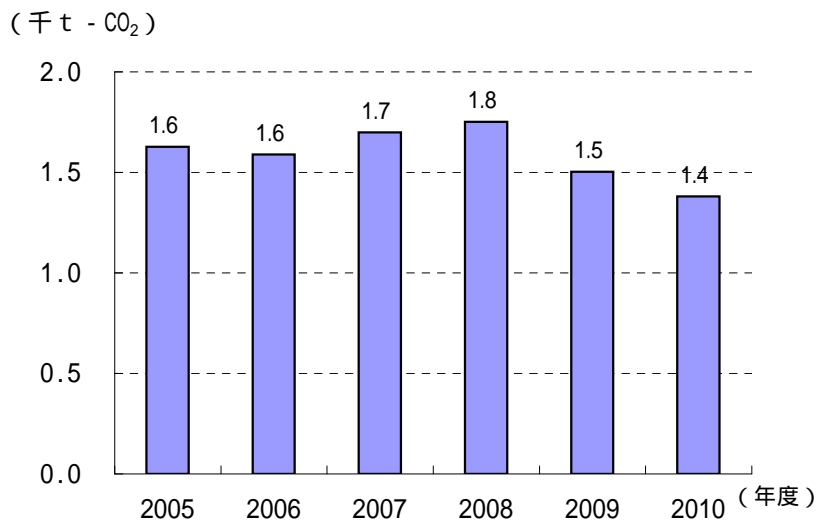


図6-1 CO₂(二酸化炭素)排出量の推移

当サイトの最近の主な取り組みは以下の通りです。

1. 蛍光灯の間引き

廊下、会議室、食堂等の共用スペースの天井蛍光灯を2分の1にする間引きを実施。(安全配慮の為、照度基準を確認しながら実施しています。)

2. 人感センサーによる照明時間の削減

共用スペース(ロビー・廊下・ラウンジ・トイレ等)の照明に人感センサーを取り付け、必要時のみ点灯することで省電力を図りました。

階段には、普段は照度を抑え、人を検知すると明るくなる調光式の照明器具を導入しました。

3. エレベーター利用の自粛

健康増進も兼ねて2アップ3ダウン運動(2階上、3階下までは階段を使う)を実施しています。

4. 2011年度夏季節電対応

東日本大震災に伴う電力不足に対する取り組みとして、夏季休暇を従来の夏季休暇に加え秋の祝日出勤日との振替を実施。長期連休にすることで、昨年度に比べ使用電力を14%削減することが出来ました。(2011年8月分)



写真6-1 照明スイッチの表示



写真6-2 エレベーターの掲示

(2) 循環型社会を目指した取り組み

コニカミノルタグループは、製品の開発段階において、省エネ、リサイクル性、環境配慮の設計を行うとともに、生産サイトでは分別を徹底し、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を行い、排出物削減への取り組みを継続的に行っています。

当サイトの排出物の推移は以下の通りです。ここ数年、保管倉庫を中心に進めていたサイト内の整理・整頓も一区切りが付き、昨年度は大幅に廃棄物の排出量を減らす事が出来ました。また整理・整頓を進めた結果、空スペースが増加しそれに伴う照明や空調の節約で省エネにも貢献することが出来ました。

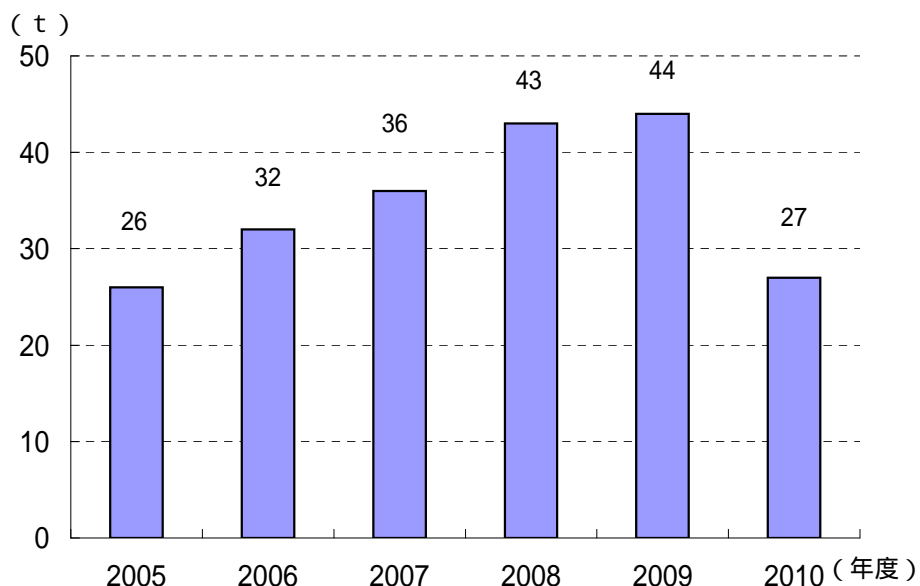


図6-2 排出物量の推移

1. リユースの推進

不要になった段ボール箱、エアキャップ、発泡スチロール箱などの梱包材を整理し、探し易く保管しています。特に発泡チップなどの緩衝材は使い勝手の良いサイズに袋詰めし直して保管するなど工夫し、リユースを推進しています。

また、ある部署で不用になった什器・備品は写真付きで他部署へ紹介するなどして、可能な限りのリユースを行っています。



写真6-3 梱包資材のリユース品置場

2. 職場での分別回収

それぞれの職場ではサイトで決められた分別基準に従って排出する時点で正しい分別を行い、再分別の手間を減らし、リユース、リサイクルに貢献しています。



図6-3 分別表示ラベル



写真6-4 職場の分別回収棚

3. エコキャップの回収

当サイトでは、環境への取組みと社会貢献を目的とした、エコキャップ運動を2009年1月より実施しています。ペットボトルから分別回収したキャップを洗浄し、NPO団体へ送付しています。キャップの販売益はワクチン寄贈団体を通じて途上国へ寄付されています。

当サイトがこの1年間（2010年12月～2011年11月）で送付した17,160個のエコキャップにより、約21人分のワクチンが購入されました。また、キャップの再資源化により、136kgのCO₂削減につながりました。



写真6-5 啓蒙ポスター



写真6-6 回収ボックス

(3) 水質・大気・騒音

1. 水質：当サイトの排水は、サイト内の排水処理施設で処理した後、高槻市の公共下水道へ放流しています。

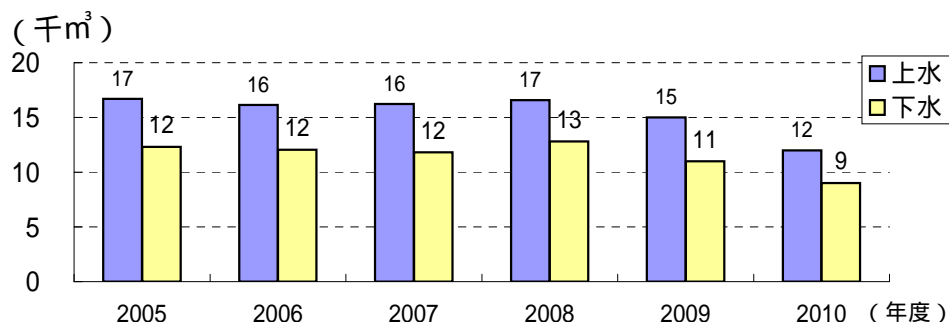


図6-3 上水使用量・下水放流量の推移

[2010年度の排水モニタリング結果]

当サイトでは、環境保全のため、法規制を遵守するだけでなく、法より更に厳しい自主基準値を設定して、水質管理を行っています。測定値は下表の通り、下水道法の規制値及び自主基準値に対して問題のない値となっています。

表6-1 下水放流水質データ

	項目 (mg/L)	法規制値	自主基準	最大値	最小値	平均値	測定頻度
健康項目	鉛及びその化合物	0.1	0~0.05	<0.01	<0.01	<0.01	1回/月
	フッ素及びその化合物	8	5~6	<0.8	<0.8	<0.8	1回/月
	テトラクロロエチレン	0.1	-	<0.0005	<0.0005	-	2回/年
	ホウ素及びその化合物	10	-	<0.1	<0.1	-	2回/年
	ジクロロメタン	0.2	-	<0.002	<0.002	-	2回/年
	ベンゼン	0.1	-	<0.001	<0.001	-	2回/年
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)	5~9	5.8~8.6	7.5	6.8	7.2	1回/月
	生物化学的酸素要求量(BOD)	600	20~25	5.8	<2	2.6	1回/月
	懸濁物質(SS)	600	50~65	5.6	<2	2.8	1回/月
	n-ヘキサン	5	1~4	<1	<1	<1	1回/月
	窒素含有量	240	90~190	1.8	0.5	1.1	1回/月
	リン含有量	32	10~25	<0.1	<0.1	<0.1	1回/月
	六価クロム	0.5	0.1~0.4	<0.02	<0.02	<0.02	1回/月
	マンガン	10	-	<0.1	<0.1	-	2回/年
	銅及びその化合物	3	-	<0.1	<0.1	-	2回/年
	亜鉛及びその化合物	5	-	<0.1	<0.1	-	2回/年
	鉄及びその化合物(溶解性)	10	-	<0.1	<0.1	-	2回/年

2. 大気：都市ガスを燃料として使用していることから、ばいじんとNOxを管理しています。下表の通り、大気汚染防止法の規制値に対して問題のない値となっています。

表6-2 大気測定データ

発生施設名	測定項目	法規制値	最大実測値	測定頻度
ガス吸収式冷温水機No.1	ばいじん(g/Nm³)	0.1	0.002	1回/5年
	NOx(ppm)	150	25	2回/年
ガス吸収式冷温水機No.2	ばいじん(g/Nm³)	0.1	0.003	1回/5年
	NOx(ppm)	150	28	2回/年

3. 騒音：当サイトの立地場所は工業地域(第四種区域)になっています。下表の通り、騒音規制法の規制値に対して問題のない値となっています。

表6-3 騒音測定データ

時間区分	法規制値	最大実測値	測定頻度
朝 (6時~8時)	65db以下	58db	1回/年
昼間 (8時~19時)	70db以下	57db	
夕 (19時~22時)	65db以下	57db	
夜間 (22時~6時)	60db以下	57db	

7. 安全衛生・防災活動

コニカミノルタグループでは、職場の安全と社員一人ひとりの健康の維持・増進を企業経営の基本とし、日常の予防活動に重きをおいた労働安全衛生に取り組むことにより、健康かつ安全で働きやすい職場環境の確保に努めています。また、万一の災害などの発生に対しては自衛での対策を講じることで、社員ならびに近隣の皆様へ被害が及ぶことの無いよう、体制構築と訓練等によって防災力向上に努めています。これらは、事業目標の達成だけでなく、社会貢献にも必要不可欠なものと位置づけています。



写真7-1 防災避難訓練



写真7-2 消火器消火訓練



写真7-3 救急救命講習会



写真7-3 交通安全教育

8. 環境美化活動

コニカミノルタビジネスエキスパート(株)グループ社員全員で「花を咲かそう運動」を展開し、サイト入口から玄関までの通路わきに花壇コーナーを設けています。色とりどりの花々が、お客様を温かく出迎えてくれています。



写真8-1 ガーデンマムなど



写真8-2 マーヤとなでしこなど

9. 用語集

環境方針

ISO14001に沿って、環境管理を経営に取り込んだ活動を進める上で、企業理念に基づいて定めた基本方針のこと。全従業員に周知され、これに基づいて活動計画が策定され、実行される。

地球温暖化

地球全体の気温が上がり暖くなること。気候変動により地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。

人為的な影響により大気中の温室効果ガスの濃度が上昇していることが原因とされていることから、その削減による防止が必要とされている。

CO₂削減

当サイトではエネルギー源として、主に電力と都市ガスを使用しており、これらの消費量を減じる活動(省エネルギー化)を通して、CO₂削減を図っている。

3R(リデュース・リユース・リサイクル)

排出物について、リデュース(減量)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)を推進し、最終的な廃棄物を減らす取り組み。

NOx(窒素酸化物)

大気汚染の原因の一つとなる窒素酸化物の総称。

自主基準値

自ら設定した基準値。法律・条令等の規制値より数値の厳しい値とすることで、問題が生じた場合にも直ちに法令違反とならないように、運営管理するために設定されている。

生物多様性

多くの種類の生き物がいて、それらがつながり支えあって生態系の豊かさやバランスが保たれること、また多様な遺伝子が過去から連続とつながっていることを言う。

循環型社会

製品や排出物を循環資源として再利用する仕組みを持った社会のことで、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される。これからの目指すべき社会の姿。

環境負荷

環境に与えるマイナスの影響のこと。廃棄物の排出、エネルギーの消費等、事業活動に伴ない発生するすべての影響を対象にする。

VOC(Volatile Organic Compounds)

揮発性を有し、大気中で気体状態となる有機化合物の総称。

再資源化

資源として一度利用したものに処理を加え、再び同一のもしくは別の資源として利用できるようにすること。循環型社会構築の重要な手段。

騒音・振動規制

騒音・振動を防止するために、法律及び条令で上限をに定めている。

排水処理

排水処理は、一般的なpH調整及び生物処理を行った後、高度処理として活性炭による微細な物質等の吸着を行い、排水基準を満たしている水に処理し、下水道に放流しています。



KONICA MINOLTA

会社名 : コニカミノルタエンジニアリング株式会社
所在地 : 〒569-8503 大阪府高槻市桜町1 - 2
連絡先 TEL : 072-685-6111 施設管理本部 関西施設課 関西環境課
FAX : 072-682-7887
コニカミノルタ環境ホームページ:
<http://konicaminolta.jp/pr/eco>
発行年月 : 2011年12月